



最近の取り組みについて

今年もまた大雨への備えが必要な時節が到来しました。大雨のみならず、熱波や台風への備えも必要です。

さて、本年1月1日、「福岡市障がい者差別解消条例」が施行されました。4月17日、私はこの条例をPRするための街頭活動に参加しましたが、この条例の周知は十分ではありません。どんな立派な条例や法律が出来たとしても、それを使いこなすには、市民の側にも相当な努力が求められます。

その意味で、7月5日、「福岡市障がい者差別をなくす会」が発足しました。同会の今後の活動に期待します。

つぎに、当会の最近の取り組みについてご紹介いたします。まず、第4次中期事業計画の策定についてです。当会は、「どんな障がいがあっても地域でふつうの暮らしを」という理念を掲げています。この理念に沿い、本計画においても、ショートステイ、グループホーム、ホームヘルプ事業の強化が必要です。保護者の皆様の不安に応えるべく、親なきあとの問題に対処するための仕組みづくりも必要です。

また、当会は福岡市と福祉避難所開設時の協定を取り交わしていますが、災害時、職員や利用者の安心・安全を図るための行動計画も必要です。当会は損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図る行動計画（BCP）に着手いたします。

最後に、「わはは祭り」について触れます。6月28日、本年度の第1回実行委員会が開催されました。当日の会議は、お祭りの準備のための段取りや予算を策定することが主な目的でしたが、私の脳裏に昨年の台風到来の記憶がまざまざと蘇りました。綿密な情報収集と現場の適切な判断があったからこそ、昨年度のお祭りを大過なく乗り切れたのではなかったかと、私は確信いたします。

明日と言わず、今日でさえ何が起こるか予測不能な時代が到来しています。予想されるあらゆる事態に備え、十分な対策をたてることが、今、私たちに求められています。

臆することなく不安な時代に立ち向かって参りましょう。

社会福祉法人葦の家福祉社会
理事長 福山 良弘

平成30年度 葦の家福祉社会事業報告

【事業総括】

法人全体では、事業、運営基盤の維持、安定化の目標は一定前進しました。通所部門では報酬費が増え、標準的な人事、財務、労務管理、離職者の減少、職員の順調な昇格が行えました。

生活支援の強化はスタッフ確保ができず不十分に終わり、ショートステイ、特定相談支援の収支、事業推進上の調整、統括等に課題が残りました。

中期事業計画を総括し、残る期間で取り組む内容を絞り込みました。

1. 地域生活支援事業の立て直し

地域生活支援事業推進会議を毎月開催し、人材確保、収支改善、効果的な連携体制作り等について協議し、基幹型相談支援事業、ヘルパーステーションの収支改善、重度障がい者等包括支援事業の充実につながりました。生活支援事業のサービス提供体制の強化は、求人難などにより十分には行えませんでした。グループホームの赤字削減は図られましたが、ショートステイと特定相談事業は赤字運営となりました。

2. 現管理職分担による事業継続、世代継承

ヘルパーステーション、ショートステイ、相談支援事業の管理者兼務を行い、事業の継続を図りました。次年度体制作りに向け1名の管理者昇格人事を行いました。

3. 地域の中核法人としての標準的な経営、事業推進体制作り

規程による権限分担、事業推進体制を敷き、標準的な運営管理体制作りをめざし、人事・労務管理、予算・実績管理、稟議・法令遵守体制などで前進を見ました。また、資金、人事計画、考課・キャリアパスの課題を整理しました。

4. 人事・育成・採用計画による人材マネジメントの体制整備

現行人事考課制度の課題の確認、昇格考課書式の修正、手続きの統一化、人事委員会による人事編成を行いました。人事計画、職層、職務の明確化、育成プログラム、採用計画編成が課題として残りました。新卒採用では大手就活サイトの活用、こまめな見学会・採用試験の設定、求職者への個々の対応などにより一定の応募者を確保しました。しかし、中途採用では有効な募集媒体を確立することができず、採用体制の再構築が必要となってきました。

5. 中期事業計画の見直し、ポテンシャルのある事業メニュー

中期事業計画検討委員会で総括を行い、事業の進捗状況、中止する事業、残る期間内に行う取り組みなどについて確認しました。新規事業の開設は行わず、アート活動、児童支援事業、新しい地域交流・貢献事業など法人の強みや潜在性を活かした事業を推進することとしました。

※上記は事業報告書総括の一部を抜粋・要約したものです。

事業報告書の原文および各事業所の事業報告は法人のホームページ上で公開しています。

平成30年度決算報告書

社会福祉法人 葦の家福祉会

【貸借対照表】

平成31年3月31日現在

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	314,676,191	流動負債	45,100,664
現金預金	228,419,047	事業未払金	39,833,994
事業未収金	82,951,104	その他の未払金	0
未収金	5,400	1年以内返済予定設備資金借入金	4,212,000
未収補助金	1,140,000	職員預り金	1,054,670
前払費用	1,718,491		
1年以内振替長期前払費用	442,149		
固定資産	381,961,514	固定負債	61,383,000
基本財産	286,737,822	設備資金借入金	61,383,000
土地	36,533,199	負債の部合計	106,483,664
建物	249,204,623		
定期預金	1,000,000	純資産の部	金額
その他の固定資産	95,223,692	基本金	41,114,081
建物	2,286,204	基本金	41,114,081
構築物	8,794,739	国庫補助金等特別積立金	70,669,101
機械及び装置	3	国庫補助金等特別積立金	70,669,101
車輛運搬具	16,311,924	その他の積立金	56,318,120
器具及び備品	8,485,865	施設整備等積立金	53,777,680
権利	76,440	備品購入積立金	1,480,000
ソフトウェア	2,518,992	工賃平均積立金	1,018,812
施設整備等積立資産	53,577,680	工賃変動積立金	41,628
備品購入積立資産	1,480,000	次期繰越活動増減差額	422,252,739
工賃平均積立資産	1,018,812	次期繰越活動増減差額	422,252,739
工賃変動積立資産	41,628	(うち当期活動増減差額)	72,843,773
長期前払費用	373,565		
差入保証金	30,000		
その他の固定資産	227,840	純資産の部合計	590,354,041
資産の部合計	696,637,705	負債及び純資産の部合計	696,837,705

【資金収支計算書】

(自)平成30年4月1日(至)平成31年3月31日

(単位:円)

	科目	金額
事業活動による収支	事業活動収入	480,866,833
	事業活動支出	389,976,481
	事業活動資金収支差額	90,890,352
施設整備等による収支	施設整備等収入	0
	施設整備等支出	17,441,695
	施設整備等資金収支差額	-17,441,695
その他の活動による収支	その他の活動による収入	0
	その他の活動による支出	21,530,369
	その他の活動資金収支差額	-21,530,369
	予備費支出	0
	当期資金収支差額合計	51,918,288
	前期末支払資金残高	221,427,090
	当期末支払資金残高	273,345,378

【事業活動計算書】

(自)平成30年4月1日(至)平成31年3月31日

(単位:円)

	科目	金額
サービス活動の増減	サービス活動収益	475,618,859
	サービス活動費用	403,658,652
	サービス活動増減差額	71,960,207
サービス活動外増減	サービス活動外収益	5,247,974
	サービス活動外費用	4,160,808
	サービス活動外増減差額	1,087,166
	経常増減差額	73,047,373
特別増減	特別収益	0
	特別費用	0
	特別増減差額	0
	税引前当期活動増減差額	73,047,373
	法人税、住民税及び事業税	203,600
	法人税等調整額	0
	当期活動増減差額	72,843,773
繰越活動増減差額	前期繰越活動増減差額	370,939,335
	当期末繰越活動増減差額	443,783,108
	基本金取崩額	0
	その他の積立金取崩額	0
	その他の積立金積立額	21,530,369
	次期繰越活動増減差額	422,252,739

平成30年度の法人決算書をご報告いたします。
 なお、決算内容につきましては、施設にて閲覧
 することができます。



次期中期計画策定に向けて

次年度からスタートする第4次中期事業計画策定に向け、6月20日、第1回事業計画検討委員会を開催しました。現在の第3次中期計画では、“みんなで暮らせる地域を作る”のテーマのもと、街中で最重度の人が暮らせるグループホーム、第2の通所施設、基幹相談支援センターなどを整備しました。

法人を取り巻く内外の環境は、大きく変化しています。重度化、高齢化に加え、発達障がいや長期の引きこもりの方など、障がいのボーダーレス化への対応、社会福祉法人として地域に貢献しうる事業作り、災害への備えも求められています。何より事業の推進には、職員がモチベーションを持てる、働きやすい環境作りが必要です。

計画策定にあたっては、役職員に加え、家族、地域、ボランティア、後援会員、専門家も参加し、法人理念である“障がいがあっても地域の中でふつうの生活”の実現に向け、利用者を中心に関係者みんなの夢や願いが反映され、笑顔あふれる計画作りを目指します。

(法人本部長：友廣)

入所式

今年度は葦の家に3名、えーる油山に5名の合計8名の仲間が入所されました。この新しい仲間たちをお迎えする入所式を4月6日に開催しました。式典中、新しい仲間たちは緊張の様子が見られましたが、他の仲間や職員、来賓の方に挨拶することができました。

また、地域の方を含めたくさんの来賓の方に出席いただき、ありがとうございました。仲間・職員一同、元気に一年間頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。



油山クリーン作戦



5月19日、今年も堤地区の方とご一緒させていただき、葦の家の仲間・職員で参加しました。たばこの吸い殻やお菓子のゴミ等を拾いながら、いざ、油山市民の森へ。道中、地域の方から「お疲れ様！頑張ってるね！」とねぎらいの言葉をいただいたり、「皆さんでどうぞ～」と甘い枇杷をいただいたり…。

登り終えた後に参加者へ振る舞われた、手作りのかしわごはんは、しっかりとした味付けでとても美味しく、終始心温まる時間を過ごせた一日となりました。



葦の家（生活介護）

玉ねぎが採れました

地域にお住まいの児嶋さんから毎年お借りしている農園にて、今年は例年にないほどの大きな玉ねぎ（685個!!）を収穫することができました。

天の恵みを受けすくすくと成長した玉ねぎはとっても甘く、給食にも登場！みんなでおいしくいただきました♪
また、保護者の方や職員に販売し、たくさんの方々とおいしさを共有できました。



どんたくに参加しました

5月3日、今年もどんたくに参加し、葦の家の仲間・職員で「わははサンバ」を披露してきました！（どんたく路上ステージ&特別養護老人ホームさくら園さんにて）



遊びに来ていた仲間たちも飛び入り参加し、一緒に会場を盛り上げてくれました♪

また、いつも来てくださっているボランティアさんたちと一緒に、仲間も積極的にバザーの売り込みをし、たくさんの商品をお買い上げいただくことができました。

（支援員：恵藤）

えーる油山（生活介護・就労継続支援 B 型）

近所にある堤公民館・長住公民館では、毎月、「つつみカフェ」「ながずみカフェ」という喫茶が催されています。えーる油山の仲間たちも、お仕事の合間の息抜きに利用させていただいています。

カフェでは、アコーディオンやバイオリンなどの生演奏も行われており、リクエストに応じて演奏していただきます。

仲間たちは、配られる冊子の中に知っている曲があると、手を挙げてリクエスト！！注文した飲み物とお菓子をいただきながら、リラックスした時間を過ごしています♪

（支援員：大坪）



特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

毎週土曜日には調理活動、外出活動を行っています。先日挑戦した手打ちうどん作りでは、小麦粉をこねる過程から調理を開始。もちもちの麺になるよう力いっぱい生地をこね伸ばし、慎重に包丁で切り… 手間ひまかけて自分たちで作ったうどんは格別だった様子で、つるつる〜とおいしそうに味わっていました♪

外出活動の大きなイベントとして、福岡市博物館へ「ジブリの大博覧会」を見に行きました。事前にDVDを観て予習してきてくれた子もいて、準備も万端！会場に着き、トトロや猫バス、王蟲に会えると、キラキラと目を輝かせていました☆博物館の外でおやつを食べ、大満喫の一日となりました♪

夏休みも子どもたちの笑顔が見られるような面白い企画を準備しています♪ ぜひ遊びにいらっしやいませんか？

（支援員：園山）



ヘルパーステーションほっとほっと

最近、児童の移動支援のニーズが増加傾向にあります。小集団活動の放課後等デイサービスが増える中、個別支援のホームヘルプをご希望の方が増えてきています。外出経験を積み重ね、自立場面や楽しい自己選択を経験する機会によって、お一人おひとりの個別ニーズの実現に繋げていければ、と思います。

本年度の法人内人事異動によりスタッフが増えました。異動前通所にいた職員を例にとると、これまで通所でのみ関わっていた仲間に、今度は自宅や外出先で関わる機会を持てたことで、今まで知らなかった生活の一面や、ご利用者・ご家族のニーズを知ることができ、日々新たな経験を積み重ねています。また、安全に楽しく過ごすことだけが課題ではなく、支援記録の付け方等に戸惑うこともあり、スタッフ間で助言し合っています。



ホームヘルプとしての制度の範囲内とはなりませんが、児童のご利用者にも、社会参加のための力を身に付けられるような体験を共有できればと考えています。

ホームヘルプサービスによって、ご利用者の社会的障壁などの障がい（生きづらさ）が少しでも解消し、生活のしやすさ・楽しみなどを見つけることができるように支援をしていきます。

（サービス提供責任者：臼井）

ショートステイ

昨年より病気で休職していたスタッフが4月に現場復帰を果たしました。1年間という長い闘病生活に打ち勝つての復帰に、スタッフ一同大変喜んでいますが、何より、ご利用者やご家族の「おかえりなさい」「待っていたよ」の言葉には、本人の嬉しさも如何ばかりかと思えます。

事業所としてこれからもご利用者の願いやニーズにお応えできるよう努めていく所存です。

「福岡市障がい者等地域生活支援協議会」の「地域生活移行部会」に参加しました。部会では、市内の入所施設・グループホームの利用者、保護者、事業者に対し「障がい者の地域移行に関する調査」を行いました。「障がい者個人が市民として、自ら選んだ住まいで安心して自分らしい暮らしを実現すること」を目的とし、調査結果をもとに提言書を作成し、「第6期障がい福祉計画」への反映を目指しています。

(主任：上片野)



相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

当センターには、障がいのある方やそのご家族・支援者から、日々さまざまな相談が寄せられています。

最近、「ゴミを片付けてご本人が健康的に暮らせるように一緒に支援をしてほしい」との相談が関係機関から入りました。この家は長年ライフラインが停止し、ゴミがたまり、地域住民から心配の声も寄せられていたとのこと。家主であるご本人には障がいがあり、全体的に生活支援が必要なケースでした。

早速行政と区社会福祉協議会、当センターで協力し、清掃プロジェクトを立ち上げました。途中、様々な問題が発生したため、ケア会議（説明会）を開き、地域の方々にご理解とご協力をいただいた上で清掃する運びとなりました。

清掃は、2日間で約60名のボランティアさんたちと家主であるご本人とで実行しました。清掃後、ご本人から笑顔とお礼の言葉が出たときには、ボランティアさんたちから拍手がわき、とてもあたたかい空気に包まれました。



私たち支援機関だけでは到底成し遂げられなかった今回のプロジェクトは、地域住民の方々やボランティアさんのご協力、行政と民間団体のバックアップのすべてが統合されて実現したものであることを、しみじみと感じております。

この度ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(主任コーディネーター：田中)

グループホーム（すてっぷ・すまいるホーム）

すまいるホームでは男性2名のアルバイトさんが、今年度から新任職員として入職しました。今回はこのお二人の自己紹介をお届けしたいと思います！

■金丸大行（かなまるひろゆき）さん

前職で福祉の現場に携わる機会があり、社会における福祉職の必要性と重要性を感じていました。そこで、日本福祉大学の通信教育学部で4年間学び、昨年11月から今年の3月までアルバイトとして葦の家のショートステイ・すまいるホームでお世話になりました。

今年度からはすまいるホームの職員として、仲間の皆様と朝・夕・休日を共に過ごすこととなります。安心して余暇を過ごしていただけるよう、支援に関する知識を増やして技術を高めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



■緒方優輝（おがたゆうき）さん

私は学生時代から友人の相談事を聴くことが多く、将来は対人援助職に就きたいと考えておりました。そこで、大学卒業後に福祉の専門学校に入学し、2年間福祉を学びました。



すまいるホームには専門学校在学中にアルバイトとして入職し、日中・夜間、仲間たちと共に生活をしました。その中で、卒業後もこの仲間たちと共に生活をしていきたいと考えるようになりました。グループホームでの業務では、日中とはまた違った仲間の顔が見られることが魅力だと感じております。

少しでも良い生活を仲間全員に提供できるよう、支援技術を高めていき、根拠のある支援を行えるようにしてまいります。

■平成30年度 苦情受付報告

苦情受付：1件…基幹型相談支援センターにおいて相談支援員の対応に対する苦情
(福岡県運営適正化委員会の事情聴取案件)

社会福祉法人 葦の家福祉会だより 2019年8月号

発行日 2019年8月1日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川4丁目1-17

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>